



子どもと絵本



湯沢朱実



子どもは変わらない

昨年十一月、私を含めた三人の主婦は、絵本のガイドブック『ぼくの絵本わたしの絵本』を自費出版しました。私たちは、三十年前、東京子ども図書館のお話の講習会で一緒に学んだ仲間です。年齢も住む所もまぢまぢですが、以後三十年間、子どもたちにお話を語り、絵本を読むことを続けてきました。

そして、三十年前の子どもが楽しんだお話や絵本を、今の子ども夢中になつて聞く姿に接し、子どもは変わらないと実感してきました。子どもはよい話、よい絵本に出合えば、間違いなくそれを選び取ることができるのです。

何を読めばいいの

二〇〇一年から始まったブックスタートと子どもの読書活動の推進に関する法律が、子どもの読書環境を大きく変えました。

ブックスタートは、赤ちゃんのいる家庭に絵本をプレゼントし、絵本を通じて子育て支援を行う活動です。「赤ちゃんに絵本？」という驚きの声をよそに、ブックスタートは出版界の後押しもあり、行政指導の下に広がっていきました。さらに子どもの読書活動の推進も「学校での読み聞かせ」として、多くの親の参加を得て、全国的に広がりつつあります。こうして、〇歳から小学

生までの膨大な数の子どもたちが、絵本の読者として考えられるようになったのです。

ここ数年、児童書の年間出版点数は三五〇〇〜四〇〇〇、そのうち二〇〇〇点が絵本だといわれています。この本の洪水の中から、子どもに何を読んでやったらいいのでしょうか。子どもは、自分たちが本当に求めているものと、どうやって出合えるのでしょうか。長い間子どもたちが楽しんで読み継いできた本は、どうなったのでしょうか。

そこで、私たちは、今の子どもたちがよい本に出合えるようにと願い、絵本のブックリストを作ろうと決心したのです。

ガイドブックを作る

ガイドブックに入れる本を決めるとき、私たちが一番大切にしたのは、「子どもたちの心に添う」ということです。子どもたちの心を動かし、子どもの心を喜びで満たすのはどんなお話を考えながら、各自がお勧めの本を出し合いました。すると、一五〇冊ほどのリストがで

きました。

それをどうするか？ 「とにかく読んでみましょう」ということになり、一冊ずつ、一人が絵を見せながら声に出して読み、ほかの者は絵を見ながらお話を聞きました。日ごろ、子どもたちに本を読んでいる自分たちが、読んでもらおう立場になって、その楽しさを体験したのは思いがけない収穫でした。

絵本は、読んでもらおうことで、その良さも欠点も見えてきます。絵本は、やはり「読んでもらおうもの」なのです。お母さんや幼稚園、保育園の先生は、ぜひ試してご覧になるといいと思います。子どもたちは、そうやって本と出合っているのですから。

そして一五〇冊の本を読み終わったときには、私たちの間ではほとんど意見の相違がなく、絵本七十八冊、読み物三冊が決まりました。

年齢で分ける

私たちは、年齢で分けることに必ずしも賛同している

わけではありませんが、このガイドブックを手にする読者のことを考えると、大まかにでも年齢で分けたほうが親切だろうと思います。

もともと私たちは、〇歳児に絵本が必要だと思ってい
るわけではありません。けれども赤ちゃん向けの月刊誌
まである現状を考えると、〇歳児を無視することもでき
ません。そこで、〇歳から学校に入るまでと考えて、全
体を六章に分け、その後に昔話を入れました。

三十年間子どもにお話をしてきた私たちは、幼い子が
どんなに昔話を楽しむか知っています。絵がなくても、
耳で聞く言葉で場面を想像し、ドキドキしたり、ハラハ
ラしたり、悲しんだり、喜んだりしながら、不思議なお
話の世界を旅することができます。身近な大人に読
んでもらえば、少しくらい怖いお話も、安心して楽しむ
ことができるでしょう。

子どもに教えられる

年齢別に分けるとき、手掛かりになったのは、文庫の

子どもたちの記録です。これは単に貸し出し回数ではな
く、一人の子が三十冊読み終わるたびに、その中から
『好きな本』を選んでもらったものです。

シリーズの本を紹介するとき、どの一冊にするか、た
とえば『せきたんやのくまさん』（フィービ&セルビ・
ウォージントン作・絵 石井桃子訳 福音館書店）は、
シリーズではかに四冊が出ています。初め私たちは、子
どもは食べ物が好きだから、『パンやのくまさん』
（フィービ&セルビ・ウォージントン作・絵 まさきる
りこ訳 福音館書店）にしようかと思いました。ところ
が記録を見ると、三歳の子が好きなのは『せきたんやの
くまさん』なのです。「どうして？」と、五冊をみんな
で読んでみると、『せきたんやのくまさん』は、ほかの
四冊より、お話がシンプルでわかりやすく、小さい子も
充分楽しみ、満足することがわかりました。

うさこちゃんのシリーズ”（ディック・ブルーナ作・
絵 石井桃子訳 福音館書店）でも考えさせられまし
た。このシリーズは、どのブックリストでも、初めの一

冊『ちいさなうさこちゃん』を紹介しています。しかし、子どもの記録カードは、違うことを言っているのです。そこでまた、それぞれが覚えてしまっているほど何回も読んでいる本を読み、聞きます。すると、子どもの本の読み方が、素直に伝わってきました。主人公になりきって、お話の世界を楽しんでいる子どもには、『うさこちゃんとううえんち』がうれしいのです。これは、長年幼稚園でお話をし、読み聞かせをしている仲間の感想とも、一致しています。

こうして、私たちは、子どもの気持ちに立ち返り、一冊一冊目を通し、その本を読んだときの子どもたちの表情や、思わず出た言葉を思い出し、確認し合いながら、原稿を書きました。

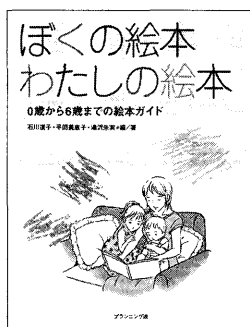
自費出版

絵本のガイドブックなのだから、どのページも色刷りで、若い人たちに読んでもらいたいから安く、そんな条件では、出してくれる出版社はなかなかありません。そ

こで自費出版することにしました。幸い、杉並区を中心に子育て支援の活動をしている若い人たちのグループ「プランニング遊」が、出版に関するさまざまなことを引き受けてくれました。定価も、赤字にならないぎりぎりにして、『ぼくの絵本わたしの絵本』は世の中に出ていきました。三人の主婦のささやかな試みが、皆さんの役に立つよう祈るばかりです。

*一般書店では扱っていません。(銀座教文館ナルニア国、東京子ども図書館ではお求めになれます。)

購読ご希望の場合は、発行元に直接ご注文ください。



ぼくの絵本わたしの絵本

0歳から6歳までの絵本ガイド

石川道子・平田美恵子

湯沢朱実 編訳

定価 1,470円(税込)

プランニング遊

東京都杉並区菰窪5-16-7-103

FAX 03-6762-8790